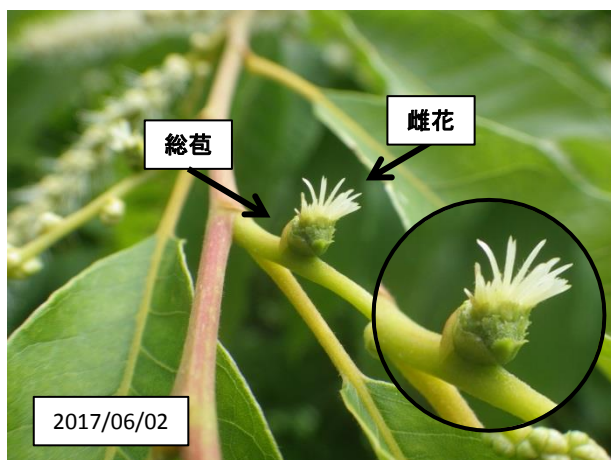


植物多様性センターの「クリのイガ」

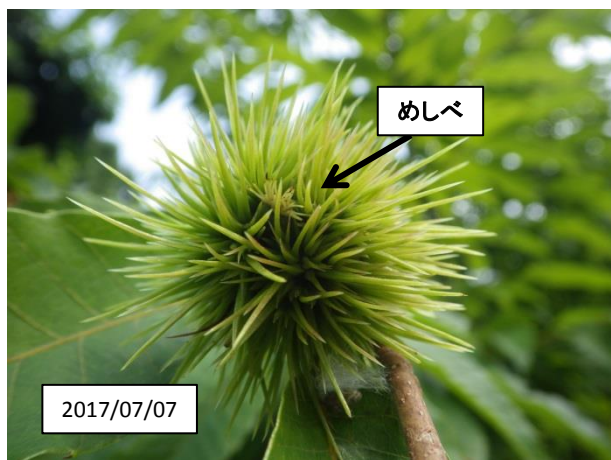
クリは秋の味覚を代表するおなじみの果樹で、クヌギやコナラなどと同じブナ科の植物です。これまでクリの実やイガがどのように成長するのか、じっくりと観察したことがありませんでした。そこで、開花のはじめから、クリのイガの肥大の状況を定点観測で撮影してみることにしました。なるほど、クリの実がイガの中に3個ずつ入っているのは、雌花がもともと総苞の中に3個ずつ入っているからなのですね。



雌花：雄花のついた長い花序の基部に3個ずつ咲かせる



果実の肥大初期：めしべが若いイガ(総苞)からはみ出している



イガ(総苞)が大きくなってめしべを包み込みはじめる



イガが伸びて成長し、めしべが外からほとんど見えなくなる